

第4期 事業報告書

2005年1月1日～2005年12月31日

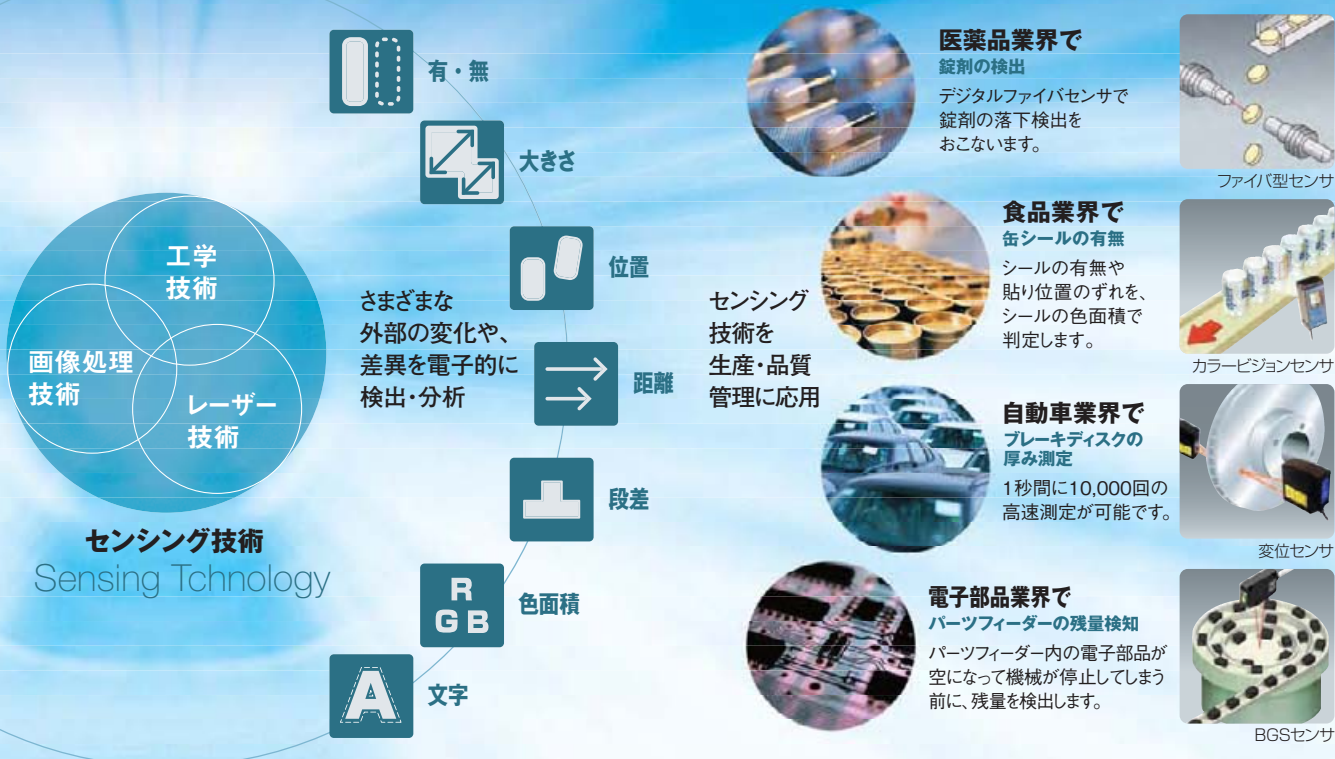


CONTENTS

プロフィール	1
デジタルの眼=センサで、 ものづくりの課題を解決しています。	
株主の皆様へ	3
おかげさまで、上場後初決算を 増収増益で迎えることができました。 ■株主の皆様からの質問にお答えします。	
特集1:キーワードで解説	7
よくわかるOPTEX FAの強み	
特集2:新規事業	9
2006年1月、画像処理用LED事業を開始	
TOPICS	10
要約個別財務諸表	11
会社の概況/株式の状況	13

デジタルの眼=センサで、ものづくりの課題を解決しています。

高い付加価値が要求されるものづくりの現場では、生産性の向上や品質要求の高度化の中で、品質管理がますます重要になってきています。精度の高い品質管理を行うにあたっては、製品の微妙な変化や差異を検知するセンサが多種多様に用いられています。当社は、品質管理と生産性向上を提案するパートナーとして、各種産業用センサを提供する独創的な開発型企業です。



センシング技術で、お客様に「生産・品質管理」のソリューションを提供しています

自動化されたラインで製品を生産するFA（ファクトリー・オートメーション）の世界では、短時間で多量の検査が必要とされています。このFAの現場で、欠かせないキーパーツとなっているのが、物体に接触することなく、すばやく高精度に物体を検出できる赤外線を利用したセンサです。

製品の小型化・微細化、品質ニーズの高度化、生産ラインのスピードアップ、検査項目の複雑化など、産業用センサが必要とされる用途はますます広がっています。当社は需要拡大を続ける産業用センサ分野で、独自技術を駆使して、お客様のニーズに応じた最適なソリューションを提供しています。

例えば 食品業界や製薬業界で高い評価をいただく **CVS** シリーズ

カラービジョンセンサ

当社の製品には、単機能でさまざまな用途に使用される「汎用機器」と、用途を限定して高度な機能を持たせた「アプリケーション機器」の2分野があります。後者において当社は、世界初のオールインワン画像センサ「CVS(カラービジョンセンサ)シリーズ」を自社開発しました。画像識別に必要なシステムを一体化してコンパクト化したCVSは、ロープライスで安定した機能を提供できることから、食品や医薬品などの業界で高い評価をいただいているほか、自動車や半導体などの業界でも注目を集めています。

CVSシリーズの特長

特長
1

圧倒的なコンパクトサイズ

画像判別に必要なカメラ、モニタ、照明、コントローラなどを一体化した画像系カラーセンサ。

特長
2

誰でも簡単に設定可能

自動学習機能を備えているため、簡単な操作で、誰でも10秒あれば検出設定が可能。

特長
3

高い検出安定性

当社独自のプロセッサの開発で、従来のカラーセンサでは得られない安定した性能を發揮。



世界最小
文字認識センサ

CVS4

アルファベット・数字・記号を認識(OCR)し、賞味期限・製造年月日やロット番号等の文字認識が可能な画像センサです。



営業担当者の声

自動車業界からも
好評をいただいています。

部品の異種混入防止や不良部品の検出などの用途で、自動車業界のお客様にもCVSシリーズは高い評価をいただいています。たとえば同じ大きさであっても形状が異なる部品のチェックには、エッジ(輪郭)判別に適した「CVS3」を、色が異なる場合は色面積センサ「CVS1」を導入いただくといった具合です。

CVSシリーズは、これまでの画像処理システムに比べ、オールインワンにすることで低コストで導入いただけ、設置や設定も簡単に行えるなど極めて競争力ある製品です。

自動車業界は日々進歩し、新たな品質管理ニーズも次々と発生しています。すでに小型化や高精度化、モニタの大画面化といったご要望を伺っていますが、さまざまなニーズにいち早く対応し、自動車業界という大きな市場での取引を拡大していきたいと思えます。



“これまでになかった製品”を次々に開発していきます

品質管理の高度化に伴い、産業用センサには従来になかった高精度の機能と、導入を促進する価格力の双方が必要とされています。当社はこうした需要にお応えしていくとともに、この技術を新市場へと広げていこうとしています。そのコアとなるのが、画像センサ「CVSシリーズ」であり、高精度変位センサなどの「アプリケーション機器」です。

当社は、自社に工場を持たない完全委託生産によってマーケティングと研究開発・商品開発に特化した企業であり、アイデアを実現する力を有しています。ますます市場が拡大する産業用制御機器業界にあって、当社はお客様に本当に役に立つ“これまでになかった製品”を次々と提案・開発していきます。



おかげさまで、上場後初決算を増収増益で迎えることができました。



オプテックス・エフエー株式会社 代表取締役社長 小國 勇

株主の皆様には、格別のご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社は2002年、親会社であるオプテックス株式会社の産業用光電センサ事業部門を分社化して設立し、2005年8月にヘラクレス市場に上場いたしました。

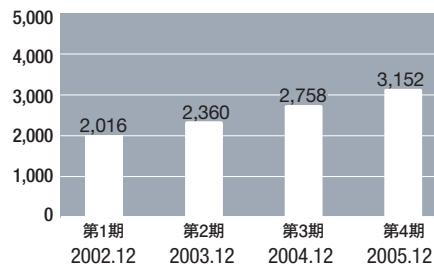
当社は当期(2005年12月期)、設立から4期連続増収増益を果し、当期における売上高は設立時の約1.5倍、経常利益は同約5倍となりました。これは当社が基盤をおく制御機器市場が堅調に伸張したことに加え、ファブレス(生産の外部完全委託)型ビジネスモデルの採用と、新製品の開発と市場投入が順調に推移した結果と考えております。

ここに上場後初めての営業成績をご報告するにあたり、株主の皆様からお寄せいただいたご質問にお答えする形で説明申し上げます。

財務ハイライト(単体) ※当社は連結対象子会社がありません。

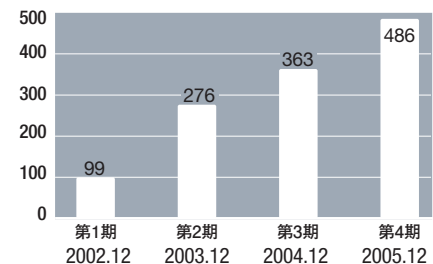
売上高

(単位:百万円)



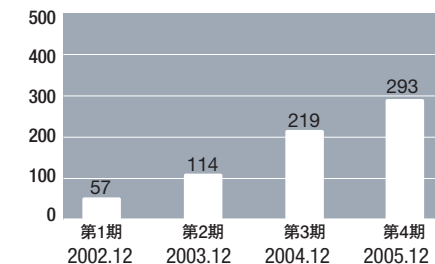
経常利益

(単位:百万円)



当期純利益

(単位:百万円)



株主の皆様からのご質問にお答えします

Q1 当期の業績を振り返って何がいえませんか？

A1 4期連続増収増益を果たしただけでなく、新たな市場へのアプローチを進めました。

当期の売上高は31億52百万円(前期比14.3%増)、経常利益は4億86百万円(同33.7%増)、当期純利益は2億93百万円(同33.8%増)となりました。

産業制御機器業界では積極的な設備投資の動きがみられる中、当社は国内においては専門商社と提携強化を図り、実績ある食品業界に加え、包装や物流、自動車、半導体などの業界への展開を図りました。

海外においては北米地域での営業力強化のため現地代理店への販売活動に力を注ぐとともに、主要販売先であるSICK AG社(独)と製品開発を含む一層の関係強化を図りました。また生産システムの改善、原価低減に取り組み収益力・競争力の向上に努めました。このような結果、4期連続の増収増益を果たすことができました。

当社の製品は、さまざまな用途に使える単機能汎用センサ(汎用

機器)と、用途を限定して機能開発したセンサ(アプリケーション機器)に大別されます。品目別に見ますと、両品目とも売上高が増大しましたが、汎用機器は予想より伸張、アプリケーション機器は販路を構築中ということもあり伸び率は予想を若干下回りました。

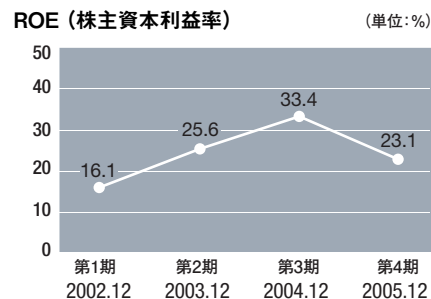
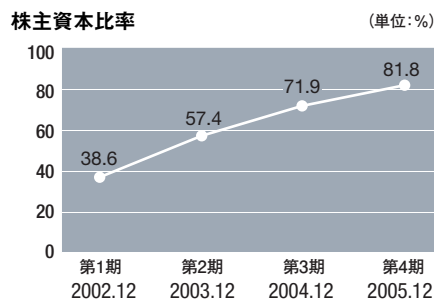
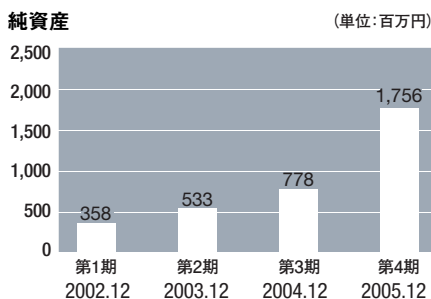
Q2 市場開拓の今後の方向は？

A2 既存の市場での高シェアを持続させつつ、より巨大な市場=自動車、電気、半導体業界へ展開していきます。

産業用センサ、とりわけ品質管理に関わるセンサ市場は、国際標準の品質規格(ISO9001)を導入する企業が増えたこと、生産スピードが速くなり人では判別できない微細な検査が必要とされるなど品質管理ニーズの高まりから、年々、市場が拡大しています。

当社は食品業界において25%程度の国内シェアを有し、ブランド力も浸透していますが、さらに大きな市場である自動車や電気、半導体等の市場開拓を進めています。

微細かつ自動化が進むこうした市場では、短時間で多量な検査が要求されます。そのため外観検査や位置決め、文字認識、寸法測定など幅広い用途で、画像センサや画像処理装置の導



株主の皆様へ

おかげさまで、上場後初決算を増収増益で迎えることができました。

入が進んでいます。また対象物の小型化・微細化、生産ラインのスピードアップ、検査項目の複雑化などによって需要は多様化し、この市場におけるセンサの市場規模は毎年、拡大しています。

当社はこうした多様なニーズに即した製品開発に取り組み、すでに自動車業界向けへの専用センサの開発を進めています。また変位センサにおいても、液晶向けセンサの開発を進めています。

Q3 他社との提携について、どのように考えていますか？

A3 有力メーカーとの提携も視野に入れていきます。

自動車や電気、半導体市場を開拓するにあたっては、高機能画像処理分野へと技術領域を広げる必要があります。当社は、この領域を早期に強化するために、画像処理関連技術を保有するメーカーとの提携あるいは出資を進めていく考えです。

当社は、たとえばCPU（中央演算処理装置）といった製品のコアとなる技術を有しています。当社の技術と相手先の技術を融合させ、製品開発のスピードを速め、市場開拓を早期に実現していきます。

Q4 海外展開、とりわけ中国での展開は？

A4 まずは汎用センサでのシェア獲得を目指します。

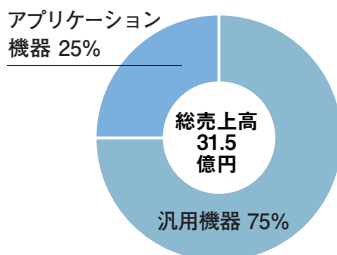
中国には当社の販売代理店があり販売活動やマーケットリサーチをしています。ただし、中国がセンサの大規模市場になるのは少し先になると考えています。現在の中国市場では生産促進用の汎用センサが主流であり、国内のように品質管理用センサが大量に必要とされる段階には至っておりません。当社としては、まず汎用センサでのシェアの獲得を目指し、中国市場での足場を固めていきます。

Q5 配当政策について教えてください。

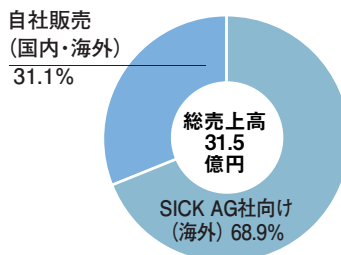
A5 5年以内に配当性向30%の実現を目指しています。

上場企業としては、株主様に安定した利益還元を継続して行うことを重要な経営課題と認識しています。会社設立以降、必要な内部留保を確保するため配当は実施していませんでしたが、当期においては期末配当金6,000円を予定しております。こ

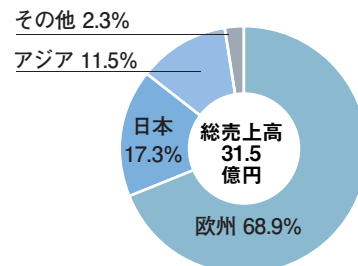
品目別売上構成 (2005年12月期)



販路別売上構成 (2005年12月期)



地域別売上構成 (2005年12月期)



これは上場記念配当2,000円を含むもので、配当性向は約23%となります。

今後は事業拡大と経営基盤確立のため内部留保の充実を勘案しながら、業績に見合った適切な利益還元を実施してまいります。この目標を配当性向30%とし、今後5年以内には達成できるよう尽力する所存です。

Q6 次期見通しと中長期経営戦略を教えてください。

A6 2008年度売上高50億円、売上高経常利益率25%を中期的指標としています。

次期の通期業績予想としては、売上高35億円(当期比10%増)、経常利益6億円(同23%増)、当期純利益3億50百万円(同19%増)を見込んでいます。

中長期経営戦略においては、著しい成長が予想される高付加価値な画像センサ、変位センサなどの独自製品(アプリケーション機器)の開発によって、自動車・半導体業界等への新規展開を重要な戦略としています。

また独自製品の販売にあたっては、国内では専門商社を活用し



た全国展開に加え、直販ルートの拡大(拠点増設)を、海外販売では主要4市場をターゲットにネットワークの強化を図っていきます。

画像処理システム分野の拡大にあたっては、すでにLED照明事業を立ち上げましたが、関連メーカーとの提携や資本出資により早期に事業拡大を図っていきます。

こうした施策の実行により、2008年度の売上高50億円、売上高経常利益率25%を中期的指標として掲げています。

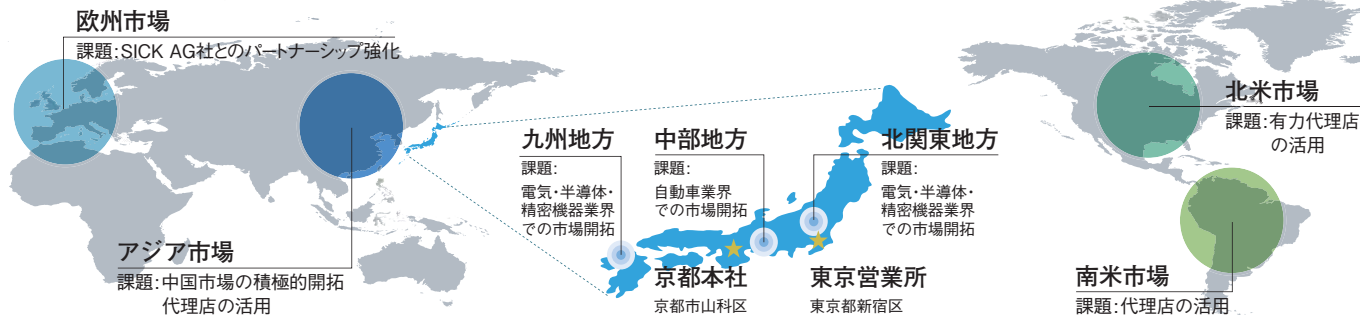
今後とも、株主の皆様におかれましては、当社へのご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

2006年3月

オプテックス・エフエー株式会社
代表取締役社長

小國 勇

全世界でのマーケティング活動と課題



キーワード **ビジネスモデル**

1 **ファブレス生産で開発とマーケティングに特化**

当社は設備投資が必要となる製造部門を持たず、生産はアウトソーシングし、研究開発・商品開発とマーケティングに特化するというビジネスモデル(ファブレス生産)を構築しています。当社のマーケティングスタッフは、さまざまな産業分野のお客様の課題をヒアリングし、最適なセンサの選別やシステム提案、あるいは必要

な機能を備えたセンサの開発を行っています。ニーズを先取りしたソリューションの提案が、お客様の信頼につながっています。



キーワードで
解説

よくわかるOPTEX FAの強み

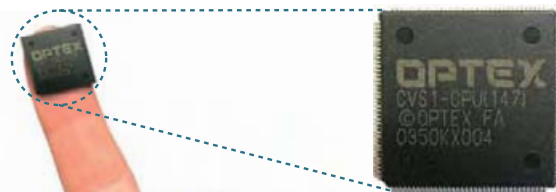
あらゆるものづくりの現場で、自動化や効率化、品質管理に欠かせない役割を担うのが産業用センサです。FA(ファクトリーオートメーション)において、とりわけ品質管理に貢献するセンサの開発と供給を担う当社には、優れたメリットを提供できる「理由」があります。

キーワード **テクノロジー**

2 **基幹技術を自社開発**

画像センサの基幹技術はデジタル信号処理であり、その処理能力は「CPU(中央演算処理装置)」の性能が左右しています。多くの同業他社がこの装置開発をアウトソーシングしている中、当社はCPU「OPTCPU」を自社開発しています。このCPUは、十分な性能を有しながら極めて回路規模が小さく、消費電力が少ないという独自のアーキテクチャを有しています。

ものづくりの現場では、高度化、多品種生産が進んでいますが、当社がこうしたニーズにすばやく対応できるのも、基幹技術を自社で開発できる力を備えているからにはほかなりません。



自社開発のCPU
「OPTCPU」

キーワード

3

生産力

競争力を生み出す生産体制

当社は国内2工場(滋賀・福井)に小ロットで付加価値の高い製品を、また海外1工場(中国広東省)に生産ロットの多い製品を生産委託しています。試作品製作まで含めた完全ファブレス生産であり、自社で不要となる設備投資コストを製品価格に反映できることから、コスト競争力がある製品が提供できます。

生産委託工場に対しては、品質改善や生産性の向上を徹底的

にサポートするなど、生産システムをトータルにバックアップしています。また品質マネジメント体制においても、委託先全社がISO9001を認証取得しており、国際標準に基づく体制を構築しています。

マーケティング
技術・
商品開発

**OPTEX
F R**
オプテックス・エフエー
株式会社

生産

外部委託

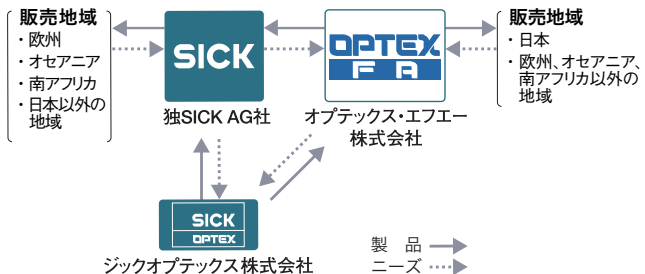
キーワード

4

戦略的アライアンス

世界トップレベルの企業との強固なパートナーシップ

ドイツに本社を置くSICK AG(ジックエージー)社は、世界トップレベルの光学設計力を保有する企業であり、当社とは長年にわたり強固なパートナーシップを築いています。当社が分離独立したオプテックス株式会社時代から数えると、約20年にわたり製品を供給しているほか、世界最先端のセンサ開発を行う合弁会社「ジックオプテックス株式会社」を設立し、汎用機器の開発を行っています。



キーワード

5

販売力

グローバルマーケットのさらなる深耕

当社売上高に占める海外売上高の割合は、SICK AG社向け汎用型光電センサを中心とする欧州地域が約7割を占めていますが、経済成長が著しい中国市場や北米市場の販売開拓に向けても営業体制を強化しています。

またこれら以外の地域においても販売網の強化に取り組み、すでに海外での1国1代理店制度を構築しています。今後は汎用機器のみならず、当社の独自製品であるCVSシリーズなどの画像センサを加えてグローバル市場を深耕していきます。

販売地域



※ 上記は、ジックオプテックスにおいて開発している汎用機器及びアプリケーション機器の販売地域です。
※ 当社で開発しているアプリケーション機器(CVSシリーズ)については全世界を販売地域としています。



2006年1月、画像処理用LED事業を開始

画像センサをトータルシステムで提案できる体制を整えました。

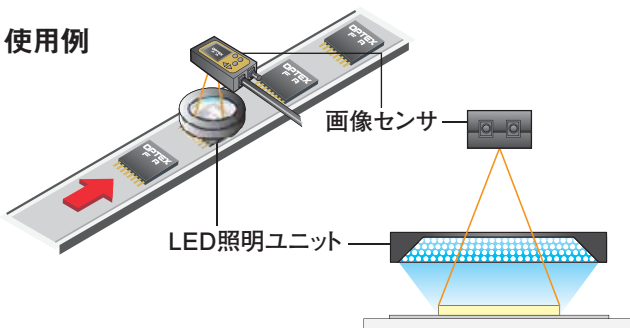
拡大する画像検査に不可欠なLED照明

PL法（製造物責任法）の施行や品質マネジメントシステム体制の強化を背景に、ものづくりの現場では品質管理や検査ニーズが高まっています。

微細な異物や傷などの外観検査では、目視による検査からカメラを用いた自動検査に移行しつつあり、画像センサや画像処理装置の需要が高まっています。

画像処理はカメラを用いて画像を取り込み、デジタル信号処理を行い画像解析・判定を行います。このプロセスで重要な役割を担うのが「照明」です。照明は、単に検査対象物を照らすだけでなく、波長・指向性・照射角度などを工夫することで、検査対象項目の「傷・異物・へこみ」などを強調させることができます。画像処理における照明の役割は、検査の安定化、検査精度の向上を担っており、LED（発光ダイオード）を用いた照明が主力となっています。

使用例



画像処理システムにおける照明には、これまでハロゲンや蛍光灯が用いられてきました。LED照明は、これらの光源と比較すると消費電力は1/2～1/5でありながら、寿命は3～10倍となります。また、LEDは材料に水銀などの物質を含まず、熱の発生も少ないことなどから、環境負荷が低い光源であり、今後の画像処理システムの主流をなす照明として注目されています。

画像処理システムをトータル提案できる体制を構築しました

これまで、「画像処理」と「照明」は個々に専用メーカーが独自に提案を進めておりました。画像処理側では、撮像画像をコンピューター処理にて検査を行います。使用するソフトに応じて要望される照明（画像）も異なってきます。画像処理における照明は、処理ソフトとの相関性が最も重要といえます。

当社では、カメラ・コントローラー・照明・モニター・ソフトを一体化したCVSシリーズを販売しており、これにLED照明を付加することで「画像処理」と「照明」の組合せの最適化を行えることができ、迅速に市場提案をすることが可能です。

2006年1月からLED照明事業を立ち上げ、自社で一貫した画像処理システムを提供できる体制を整えたことで、進化するニーズに即したソリューションを提案していけると考えております。

初年度1億円、3年後5億円規模の売上高をめざします

「点」から「線」「面」へと検査範囲が広がるにつれ、画像処理システムの導入が加速しており、画像処理用照明の国内市場規模は100～110億相当と推測いたします。当社は新規事業において、画像処理用LED照明500種類の販売とともに、画像センサとのトータル提案による販売を行うことにより、初年度（平成18年12月期）売上高で1億円規模の事業としたいと考えております。そして新たなアプリケーションの開拓、新市場への開拓をしていくことで、3年後には5億円規模の売上高を見込める事業として育成することを目指していきます。

2005.2 文字認識センサ「CVS4シリーズ」を発売

当社は2005年2月、アルファベット・数字・記号等の文字認識が可能な「CVS4シリーズ」を発売しました。賞味期限や製造年月日等が正しく印字されずに出荷された場合、全品回収といった大問題が発生します。

CVS4シリーズは、導入コストと使いやすさを両立させた画像センサの新標準として、特に食品業界や印字検査工程での需要を拡大しつつあります。



2005.10 「ジャパンパック2005」に出展

2005年10月に東京ビッグサイトで開催された「2005日本国際包装機械展(ジャパンパック2005)」に、出展しました。この展示会は、国内外の包装機械や食品機械等の新製品を一堂に展示するもので、約380社が出展し、延べ124,861人の来場者がありました。

当社は食品・包装業界で好評の文字認識センサ「CVS4シリーズ」をはじめデジタルレーザセンサ「DSシリーズ」を出展し、大勢のお客様にご覧いただき、大盛況のうちに幕を閉じることができました。



2005.8 大阪証券取引所「ヘラクレス」市場へ上場

当社は会社設立当初からの計画に従い、2005年8月31日、大阪証券取引所ヘラクレス市場に上場いたしました。新株発行による増資収入は6億84百万円であり、資本金を2億43百万円から5億32百万円に増資するなど経営基盤の強化を図るとともに、新規事業への積極的な投資に充當いたします。



2006.1 色判別センサ「CVS EASYシリーズ」を発売

当社は2006年1月、オールインワン画像センサ「CVSシリーズ」の新シリーズとして、色判別を簡単操作で可能とした「CVS Easy1」を発売しました。分解能15,000色、色と面積の大小で判別できることから、ばたつくラインや広い視野が必要なアプリケーションに最適な製品であり、さまざまな業界での展開が期待できます。



要約個別財務諸表 ※当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成していません。

貸借対照表(要約)

(単位:千円)

科目	当期	前期
	2005年12月31日現在	2004年12月31日現在
(資産の部)		
1 流動資産	1,891,399	851,253
現金及び預金	1,053,621	225,684
受取手形	123,069	99,735
売掛金	446,195	262,864
たな卸資産	154,958	130,863
繰越税金資産	13,755	10,716
未収消費税等	75,933	71,090
その他	23,864	50,297
2 固定資産	255,723	231,530
有形固定資産	63,156	46,956
無形固定資産	7,771	9,143
投資その他の資産	184,795	175,429
資産合計	2,147,123	1,082,783

(単位:千円)

科目	当期	前期
	2005年12月31日現在	2004年12月31日現在
(負債の部)		
流動負債	338,355	255,715
買掛金	138,585	107,647
未払金	46,862	50,912
未払費用	11,083	10,683
未払法人税等	130,879	73,980
その他	10,944	12,490
固定負債	52,429	48,563
3 負債合計	390,784	304,278
(資本の部)		
資本金	532,000	243,000
資本剰余金	539,573	144,073
利益剰余金	684,765	391,430
4 資本合計	1,756,339	778,504
負債・資本合計	2,147,123	1,082,783

CHECK POINT

1 流動資産

公募増資等による現金及び預金の増加や売上増加にともなう売上債権の増加等により、前期比222.2%と増加しました。

2 固定資産

検査装置等の有形固定資産の取得等により、前期比110.4%と増加しました。

3 負債合計

仕入増加による仕入債務の増加や収益の順調な推移等により、未払法人税等が増加しました。

4 資本合計

新株式の発行による公募増資等により、前期比225.6%と増加しました。

損益計算書(要約)

(単位:千円)

科目	当期	前期
	2005年1月1日から 2005年12月31日まで	2004年1月1日から 2004年12月31日まで
売上高	3,152,892	2,758,411
売上原価	1,805,349	1,681,524
売上総利益	1,347,542	1,076,887
販売費及び一般管理費	846,270	716,207
5 営業利益	501,272	360,679
営業外収益	949	4,186
営業外費用	15,667	906
経常利益	486,554	363,960
特別利益	—	314
特別損失	746	1,523
6 税引前当期純利益	485,808	362,750
法人税、住民税及び事業税	197,023	143,931
法人税等調整額	△4,549	△464
当期純利益	293,334	219,284
前期繰越利益	1,430	2,146
当期末処分利益	294,765	221,430

5 営業利益

高付加価値製品の拡販および原価低減効果
(対売上高原価率前年比△3.7%)により前期比139.0%と増加しました。

6 税引前当期純利益

営業外費用で上場関連費を計上しましたが、営業利益の増加を受けて、
当期純利益は前期比133.8%と増加しました。

キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:千円)

科目	当期	前期
	2005年1月1日から 2005年12月31日まで	2004年1月1日から 2004年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	183,371	68,722
投資活動によるキャッシュ・フロー	△39,934	△18,723
財務活動によるキャッシュ・フロー	684,500	26,000
現金及び現金同等物の増加額	827,936	75,998
現金及び現金同等物の期首残高	225,684	149,685
7 現金及び現金同等物の期末残高	1,053,621	225,684

利益処分

(単位:千円)

科目	当期	前期
当期末処分利益	294,765	221,430
利益処分量	293,900	220,000
配当金	72,000	—
役員賞与金	11,900	—
任意積立金	210,000	220,000
次期繰越利益	865	1,430

7 現金及び現金同等物の期末残高

営業活動に加え、公募増資で得られた資金を加えたため、
前期比466.8%と大幅に増加しました。

会社の概況

会社概要 (2005年12月31日現在)

会社名	オプテックス・エフエー株式会社
本社所在地	〒607-8085 京都市山科区竹鼻堂ノ前町46-1 三井生命京都山科ビル6F
設立	2002年1月7日
資本金	5億3,200万円
事業内容	ファクトリー・オートメーション用光電センサ 関連機器、装置の製造・販売等
従業員数	37名(出向者7名含む)
事業所	東京営業所
関係会社	オプテックス株式会社(滋賀) ジックオプテックス株式会社(京都)

SICK AG社(本社所在地ドイツ ヴァルトキルヒ市)について

1946年にErwin Sick GmbHとしてドイツのミュンヘンにて創業され、世界でも最も早い時期から「光電センサ」の開発製造に着手したメーカーの一社です。欧州市場で高いシェアを有している同社と当社は約20年に及ぶ取引を継続してきましたが、2003年10月にパートナーシップ契約を交わしました。



役員 (2006年3月30日現在)

代表取締役社長	小國 勇
取締役	坂口 誠邦
取締役	岩田 俊彦
取締役	西原 弘之
取締役	小林 徹
常勤監査役	見座 宏
監査役	八幡 知行
監査役	東 晃

沿革

昭和60(1985)年	オプテックス(株)において光電センサの開発に着手
昭和62(1987)年	ドイツのSICK GmbH(現SICK AG社)とのOEM契約により欧州向け出荷開始
平成元(1989)年	SICK GmbH(現SICK AG社)とオプテックス(株)が汎用型センサの開発を目的に合併(出資比率50:50)で、ジックオプテックス(株)を設立
平成14(2002)年	オプテックス(株)の産業用光電センサ事業部門を分社し、京都市山科区にオプテックス・エフエー(株)設立
平成17(2005)年	8月31日 大証「ヘラクレス」(スタンダード)上場

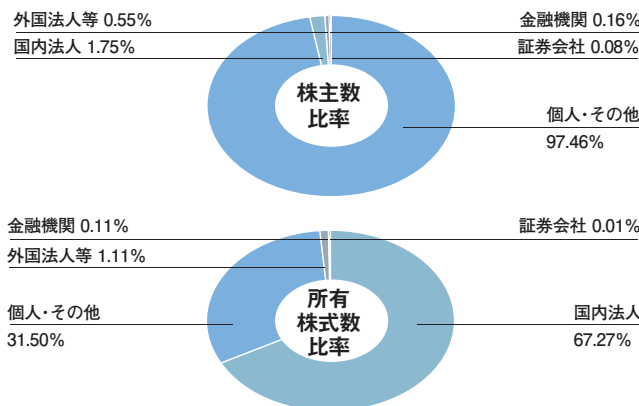
株式の状況 (2005年12月31日現在)

会社が発行する株式の総数	40,000株
発行済み株式の総数	12,000株
株主数	1,258人

大株主一覧

株主名	株数	持株比率
オプテックス株式会社	7,700株	64.16%
小國 勇	320	2.66
小林 徹	120	1.00
オフロム株式会社	100	0.83
サンオクト株式会社	80	0.66
株式会社山正マーケティングサービス	80	0.66
大場機工株式会社	80	0.66
STATELY INCORPORATED	60	0.50
西原 弘之	60	0.50
雲 竜太郎	60	0.50

株式分布状況



株式分割について

平成17年12月8日開催の当社取締役会において、当社株式の1株あたりの投資金額を引き下げ、株式の流動性および投資家層の拡大を図ることを目的とする、株式の分割を行いましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

- 平成18年2月20日(月)付をもって、次のとおり普通株式1株を2株に分割する。
 - 分割により増加する株式数
普通株式とし、平成17年12月31日(土曜日) [但し、当日は名義書換代理人の休業日につき、実質上平成17年12月30日(金)] 最終の発行済株式総数に1を乗じた株式数とする。
 - 分割の方法
平成17年12月31日(土曜日) [但し、当日は名義書換代理人の休業日につき、実質上平成17年12月30日(金)] 最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載または記録された株主の所有株式数を、1株につき2株の割合をもって分割する。
- 効力発生日
平成18年2月20日(月)
- 配当起算日
平成18年1月 1日(日)

(株式分割後の発行済株式総数)

株式分割前の発行済株式総数	12,000株
今回の分割により増加する株式数	12,000株
株式分割後の発行済株式総数	24,000株

なお、今回の株式分割に伴い、商法第218条第2項の規定に基づき、取締役決議で定款を変更し、会社が発行する株式の総数は80,000株となりました。

以上



オプテックス・エフエー株式会社

〒607-8085

京都市山科区竹鼻堂ノ前町46-1 三井生命京都山科ビル6F

TEL : (075) 594-8139 FAX : (075) 594-8124

株主メモ

上場証券取引所 大阪証券取引所ヘラクレス

証券コード 6661

決算期 12月31日

定時株主総会 3月に開催

基準日 12月31日

中間配当基準日 6月30日

名義書換代理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市中央区北浜二丁目2番21号
中央三井信託銀行株式会社 大阪支店

同取次所 中央三井信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店

アンケートのお願い

当社では、株主の皆様のご満足を追求し、事業報告書を含めたIR全般の情報提供を充実させていきたいと考えております。つきましては、同封のアンケートハガキにご記入いただき、ご投函ください。今後のIR活動にご意見を反映し、ご期待にお応えできるよう、頑張っております。何卒よろしくお願い申し上げます。



2006年3月、ホームページが新しくなりました。
皆様からのアクセスをお待ちしております。

<http://www.optex-fa.jp/>

見直しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見直し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見直しとは異なる場合がございます。



この報告書は古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。